

名古屋のルーツを語り 新たな文化を紡ぎ出す

愛知県名古屋市区 四間道・那古野界隈まちづくり協議会

1. 設立の背景

四間道・那古野界隈は、東海圏最大のターミナルで超高層ビルの再開発が相次ぐ名古屋駅より東1kmほどの所に位置し、城下町名古屋の名残がある四間道、下町風情がある円頓寺商店街・円頓寺本町商店街、また商店街の北には菓子問屋街が広がる昔懐かしい景観があり、神社やお寺もあるなどコミュニティが息づくエリアです。近年は、この地域に残る町家や長屋、商店街のお店などをリノベーションして飲食店、民泊、芝居小屋、アートスペース、ボルダリングなどに活用されるなど、新しい文化も生まれつつあります。このようなエリアで様々なまちづくりに関係する団体が活動しており、自治会組織で

ある学区連絡協議会、商店街組合、まちづくり団体など13団体が会員となり、県内の学識者、名古屋市区役所の支援を受けながら2012年10月に発足しました。

2. 地域まちづくり構想

「ナゴヤのルーツを語り
新たな文化を紡ぎだすまち」の策定

13団体で構成するプラットフォームとしてしばらくは勉強会などを続け、市民主体で継続してまちづくり活動が続けていくため、2016年1月に四間道・那古野界隈まちづくり構想を策定しました。この構想では「名古屋のルーツを語り新たな文化を紡ぎ出すまち」という基本理念と、基本理念を推進するた



エキシロロゲイニングの様子 2023年12月



3. 歴史・文化を守り育てる視点

4つの部会とも主に歴史・文化を守り育てる視点を軸とし、2014年度から2017年度にかけて愛知建築士会や名古屋まちづくり公社名古屋都市センターのまちづくりに関する助成をいただき、西区民まつり来訪者を対象とした四間道境界限の認知度を図るアンケート、川伊藤家の周知を図るためのイベント、歴史・文化を伝える四間道かわら版の発行などの活動が続けてきました。2018年秋からは城下町名古屋の名残がある四間道周辺を対象に勉強会を開催し、地元住民、建築士、不動産などの専門家の方々も参加し、名古屋市の協力も得てまちづくりの検討を重ねてきました。

景観協定や地区計画をはじめとした様々な景観に関する制度を学ぶ中で、城下町の風情や街並みを守りつつ、所々に中層ビルや現代風の意匠の建物や工作物も混在していることから、住民主体で住環境をゆるやかに守り育てていくため、建物の意匠、高さや用途、屋外広告物の意匠などのルールを固めていきました。

新型コロナウイルスの感染拡大が進む中で、6つの町内会長を中心に景観協定の同意書を200通以上集め、2021年6月18日



お菓子の実演と歴史の展示+水上交通体験 2016年10月

めに「1. 歴史・文化 まちのかたちをみんなで守り、伝え、創る」「2. にぎわい 地の人も越してきた人も行きかう人も集い、楽しむ」「3. 安心・安全 災害と共に考動し、助け合い、暮らす」と3つの方針を立てました。地域まちづくり構想を策定して以降、「建物・街並みルール部会」「(県文化財建物である)川伊藤家の活用部会」「堀川まちづくり部会」「那古野小学校の跡地活用部会」と4つの部会を掲げました。



四間道かわら版



旧那古野小学校活用を考えるワークショップ 2016年9月



地蔵盆での行灯による路地の演出 2025年8月

に「那古野一丁目地区景観協定」が名古屋市中に認可されました。景観協定を周知する活動を続ける中で、2025年8月23、24日には、毎年開催される地域の地蔵盆に参画し、路地の先にある子守地蔵尊に向かって手作りの行灯を30個以上制作し、夕方から夜にかけての路地の演出に貢献しました。さらに、名古屋・名古屋まちづくり公社・当まちづくり協議会の3者が連携して、四間道界限を対象に町家や長屋などの空き店舗や空きスペース等を活用してエリアリノベーション促進事業を実施し、語学教室と宮崎県特産の柑橘類「へべ

す」を使用したオリジナル商品の店舗の2物件が開業しました。

4. 観光の視点

これらの活動に加えて観光の視点では、西区役所が進めるエキ・シロの観光推進の動きがありました。これは西区を含む四間道・那古野界限が、東海圏最大のターミナル・名古屋駅（エキ）

と、名古屋の歴史文化・観光拠点の名古屋城（シロ）の間にあることから、エキとシロに挟まれる西区の特色を活かして観光推進を図るべく、西区役所が事務局となって2022年度からエキ・シロ観光推進協議会が発足しました。当まちづくり協議会も参画して情報発信ツール「エキ・シロナビ」のホームページと冊子版の作成に関与してきました。

5. 今後に向けて

～地域まちづくり構想の改定と「暮らしづくり」「にぎわいづくり」～

コロナ禍を経て、今年の4月に地域まちづくり構想を改訂しました。当初の基本理念と3つの方針は変えず、我々の基本路線として継続して位置付けています。一方、部会につ



エリアリノベーション促進事業で開業した店舗 2025年7月

いては近年の活動を踏まえ、前述の4つの部会から「暮らしづくり部会」「にぎわいづくり部会」と2つの部会に改編しました。「暮らしづくり」については、当まちづくり協議会は景観協定運営委員会の一員として、民間事業者からの事前相談や事前協議に対応するなど景観協定の運営と、町家や長屋などの物件を活かしたエリアリノベーション事業を続けていきます。また「にぎわいづくり」については、エキ・シロ観光推進協議会の事務局としてホームページと冊子を引き継いで運営を継続していきます。そして、四間道・那古野界限まちづくりのプラットフォームとして民間企業との連携も視野に入れ、四間道・那古野の活性化につながる取り組みを継続していきます。（四間道・那古野界限まちづくり協議会

事務局 浅野 健